

(昭和33年1月17日 富岡畦草撮影)



# 消えた街角：富岡畦草・記録の目シリーズ 昭和33年 虎ノ門交差点界限

江戸城の内堀と外堀に挟まれた地域は、防備上から武家屋敷に  
あてられた。その屋敷町も明治維新によって崩壊。跡地は新政府  
官庁街に転用された。しかしそれは、西欧文化に目覚めた意欲的  
な建設で、今も残る法務省旧館を初めとして着々と進化した。こ  
の思想は、関東大震災後の復興にも活かされたが、戦時色が濃く  
なるにつれて建設は停滞。半完成の大蔵省（現財務省）庁舎で終  
わった。ちなみに、関東大震災後に進められた霞ヶ関の官庁舎の外  
形は、空から見るとアルファベット順（A字型が警察庁、B字型が内  
務省、C字型が特許庁、D字型が文部省と二貫性を持つていた。  
虎ノ門交差点はその外堀通りと桜田通りとが交わる場所にある。  
桜田通りは、内堀通りの桜田門前から起って、霞ヶ関官庁街を  
通り、虎ノ門から飯倉へ抜け、五反田に至って中原街道と第二京浜  
につながる。外堀通りは、江戸城外堀を埋め立てて建設された皇  
居二周の道、ともに東京の交通網の基点となり、東京の都市景観を  
イメージさせる重要な道路である。

「消えた街角」の基部が立ち上がっている。当時は、これで間に合  
うのかと市民の気を採まされたものである。しかも建設は、命綱な  
ど無い時代。とび職の度胸と腕を頼りに進められた。その左、小高  
い丘の細い鉄塔は、愛宕山の日本放送協会ラジオ放送用である。  
虎ノ門交差点には、交番を構えたロータリーがあつて、その先の黒  
い第一銀行ビルの後ろに、有名な琴平神社（金毘羅神社）が鎮座す  
る。緑日には、道端に露店が並び、大変な賑わいを見た。  
右側手前には、正面玄関部分だけ写っているのは文部省（現文部科  
学省）であるが、やがて取り壊されることになっている。  
上部写真は、戦災で焼失した霞ヶ関の議員会館跡に戦後いち早  
く建設された警察予備隊（自衛隊の前身）庁舎の屋上からの撮影  
である。しかしこのときは、すでに自衛隊は市谷に移り、建物は通  
産省が使用していた。そして通産庁舎も、その後すぐに建替えら  
れ、その隣に郵政省（現郵政公社）庁舎、その先に日土地ビルなど  
が建てられた。現在では、ビルが林立しているため同じ位置から撮  
影ができず、財務省前交差点から見通した。  
（昭和33年1月17日撮影）



官公庁を含めビジネス街のイメージを持つ虎ノ門。同時に愛宕神社や  
金毘羅神社などがあることから歴史を感じさせるエリアの顔も持つ。そ  
の虎ノ門に新たにオフィスビルが誕生する。右側の建設中のビルがそ  
れで、今年12月に竣工予定の「虎ノ門琴平タワー」だ。  
そのビルの道路を挟んだ左側後方に「東京タワー」が見える。昭和33  
年の写真では、「東京タワー」は、まだ建設途中で、足場部分しか出来  
上がっていないが十分なほど存在感を出している。一方、現在の「東京  
タワー」は全長333メートルもありながらタワー上部しか見えず、いわ  
ば周辺の景観にその姿をすっかりと溶け込ませてしまっている。竣工か  
ら現在までの46年間の時の流れを感じさせる写真である。  
（平成16年4月5日撮影）

文富岡畦草とみおか けいそう  
大正15年8月、三重県生まれ 日本写真協会、日本写真家協会、自然科学写真協会などの会員

2004年6月1日発行 編集人：渡辺邦博 発行所：三幸エスエー株式会社 〒104-0061 東京都中央区銀座4-6-1 銀座三和ビル TEL:03-3664-8231  
発行人：本田広昭 三幸エスエー株式会社 誌面上のデータや内容を無断で使用することを禁じます。